

種なしぶどう房きり講習会資料（30）

J A中野市営農センター

1. 生育状況

	南部	北部	備考
巨峰発芽	4/20	4/21	平年 4/26、昨年 4/27、H28 4/20
巨峰展葉	4/23	4/25	平年 5/1、昨年 5/2、H28 4/22
巨峰開花	5/29 ?	5/31 ?	平年 6/8、昨年 6/9、H28 5/28
シャインマスカット発芽	4/25	4/27	平年 5/1、昨年 5/1、H28 4/27
シャインマスカット展葉	4/29	5/1	平年 5/8、昨年 5/8、H28 4/29
シャインマスカット開花	6/7 ?	6/9 ?	平年 6/15、昨年 6/15?、H28 6/4

5月上旬に例年になく降雨が発生(降水量 56.5mm、平年比 463%)。

べと病・灰色かび病の発生の恐れあり。防除の徹底・予防を意識した早めの散布実施。

黒とう病の発生が見られている(特に昨年多発園、防除・草刈不徹底園、若木)。

本年度は生育が前進しており、管理作業がまとまる恐れがあるため、作業を計画的に実施して、作業分散を図ってください。

2. 種なしぶどう房きり方法について

●品種別種なしぶどう房きり基準

品種	目標房重	開花前	満開時	段数(目安)	目標粒数
巨峰	350g	2cm	2.5cm	13 段×③	30 粒
ピオーネ	500g	2cm	2.5cm	13 段×②	25 粒
パープル	400g	2.5cm	3.0cm	13 段×③	30 粒
シャイン	350g・550g	3~4cm	4cm	14・15 段×③	30・35 粒

①基本的には主穂を利用する。

②主穂が使用できない場合は、第一支梗、ショルダーの順で利用する

③1 新梢 1 花穂房切り実施(1つの花穂の房切りが完了したら他の花穂は切除)

④下向きの花穂・主軸の太いもの・正常な花穂を使用(作業のしやすいものを残す)

⑤種なしぶどうは房尻を摘まない(支梗が伸びて房型が悪くなる恐れ)

⑥ジベ処理マークを残す場合は房中間部で作成する。

⑦弱い新梢には房をつけず空枝とする(本年度の葉枚数確保、次年度の結果母枝充実)

⑧花に異常を感じた場合はなるべく多く房きりを実施する(花穂2つ・ショルダー等))

●房きり時期の新梢管理について

誘引：房きり作業実施前に誘引を実施しておくとも房きり作業がスムーズになる。

捻枝：立ち枝や生育の早い太い枝は誘引時に折れる心配があるため捻枝する。

摘心：・誘引や房きり実施後、生育が早い枝(強い枝)は摘心して枝伸長を止める
(花ふり防止・果粒肥大促進)

・通常、房先7~8枚の未展葉部分の切除(巨峰・ピオーネ・ガッパ・パープルなど)

・シャインマスカットは房先3~4枚の強摘心

3. 房切り質問集・事例集

Q1) 1つの新梢に花穂が2～3つある場合どれを利用すればよいのか？

以下の2点を加味して例年の状況を振り返って適した花穂を利用しましょう。

- ・基部に近い花穂は粒肥大しやすいが、その分成熟が遅れる傾向。
- ・新梢先端に近い花穂は成熟が早くて色も付き易いが、粒肥大しづらい傾向。

Q2) 主穂の先端が2～3股に分かれて扁平な形をしている場合

- ・先端の分かれ目がはっきりしているものはまっすぐな形になるように整形する。
- ・先端の分かれ目が曖昧なものは実施せず、摘粒時期にまっすぐな形に整形する。
- ・第一支梗かショルダーを利用する（主穂の花量が多く摘粒に時間がかかるため）

Q3) 主穂の先端が極端に曲がっている・軸が扁平な形をしている場合

- ・第一支梗かショルダーを利用する（主穂の花量が多く摘粒に時間がかかるため）
- ・扁平な形の先端を切除し（尻切り）素直な形の部分を利用する。
- ・房切りの長さをやや長めにとり、摘粒時期に切り上げ・肩落としをして整形。

Q4) 昨年、未開花現象や奇形果が多く発生し、本年も心配な場合

- ・長めに房切りして先端まで開花したのを確認して、段調整を行う（満開頃）
- ・第一支梗かショルダーを利用する
（主穂より早く開花する傾向のため未開花現象の心配が少ない）
- ・主穂とショルダーを房切りして予備を置く
- ・長めに房切りをして心配がなくなった後、切り上げ・肩落としをして整形。

Q5) 第一花穂と第二花穂、両方とも奇形（扁平・曲がり・2股など）な場合

- ・後の作業を含めてやりやすいものを房切りし、もう片方は切除する。
- ・ショルダーを利用する（比較的に素直な花穂になるため）

《写真：H29 発生 シャインマスカット未開花現象の様子》



【特徴】

- ・主穂先端の蕾が上の支梗の蕾に比べ、明らかに小さい
- ・主穂先端の蕾が深緑色になる
（黒ずんでいく）

【対策】※危険回避

- ・長めに房きりを実施し主穂上部を使用できるようにしておく
- ・ショルダーや第一支梗を利用する

現在、試験場や普及センターと協力して発生要因を調査中

4. 房切り時の様子（写真付き）

《写真①：房きり方法例（種なしぶどうの場合）》



花穂全体の様子



主穂利用

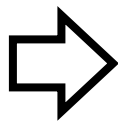


ショルダー利用

《写真②：房切り・摘心・新梢管理などの様子》



カガハ・パール展葉 8~9 枚頃



第2花穂を利用

第1花穂を利用

花穂・副梢・巻きひげ切除／房切り後、新梢先端を摘心



《写真③：誘引の様子》



房切り後、周りより長く伸長していたため新梢先端を摘心

主枝棚下・短梢カガハ・パール展葉 8~9 枚頃／捻枝・誘引・房きり・巻きひげ切除・副梢かき

5. 種なしぶどうの今後の管理について

① ストマイ液剤 20

散布時期	満開 14 日前～満開始期
散布濃度	1,000 倍
注意事項	有核栽培の園地がある場合はドリフトしないように十分注意する。 散布時期の遅れに注意し、果房に十分かかるように散布する。

◎種なしぶどうについては必ずストマイ液剤を散布する

② フラスター液剤

散布時期	展葉 9～11 枚（6 月上旬頃）
散布濃度	フラスター 3 本／10a あたり（使用量の目安） SS 散布 1,000 倍 300 ㍺/手散布 500 倍 150 ㍺
※散布例	種なし巨峰：SS で散布の場合 1,000 倍/300 ㍺（10a） 手散布の場合 500～800 倍/150 ㍺（10a） シャインマスカット：1,000 倍～2,000 倍

◎品種により、フラスターの散布倍率が違うので注意する

③ ジベレリン処理（種なしぶどう必須管理） ※後日、講習会実施（6 月上旬予定）

第 1 回目 ジベレリン処理前に必ずストマイ液剤を散布する

処理時期	満開から満開 3 日頃 遅れている花にあわせて実施（果粒がマッチ棒）
処理濃度	ジベレリン 25ppm + フルメット 5ppm （水 2ℓに 2 錠と 1 本）
注意事項	

- ・パープルはフルメットを使用しない。肥大良好園はフルメットを 2.5ppm に調節
- ・早く処理しすぎない様に注意（軸が間延びしてしまう可能性あり）
- ・遅すぎるのも注意（十分な効果を得られない）

1 発処理について ※着色しにくい品種（ピオーネ・赤系ぶどう）などにオススメ

処理時期	満開 3 日後から満開 5 日
処理濃度	ジベレリン 25ppm + フルメット 10ppm （水 2ℓに 2 錠と 2 本）

例年着色不良の場合はジベ濃度・フルメット濃度の調節を検討

【注意！】シャインマスカットのジベレリン処理について

シャインマスカットは「果粒がマッチ棒」の大きさになるまで待つてしまうとジベレリンの十分な効果が得られない可能性がある。

シャインマスカットの第 1 回目のジベレリン処理は満開から満開 3 日後を厳守する。

④ 房長調節

房長調節についてはできるだけ早めに実施。

着果過多は赤熟れ・品質低下（小玉・糖度不足）を助長する。

1 新梢 1 房とし、弱い新梢には着房させない（弱い新梢は空枝にして葉枚数確保！）

房長を調節してから摘粒開始する

房長調節(目安)	1 回目ジベ処理時	2.5～3.0 cm位（指 2 本程度）
	ジベ 1 週間後	5.0～6.0cm 位（指 3 本程度）
	2 回目ジベ処理時	7.0～8.0 cm位（指 4 本程度）